

令和7年度 学力向上に係る効果的な取組事例

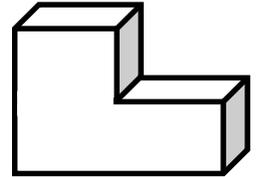
「安心して、探究に夢中になれる学び」

久喜市教育委員会・久喜市立久喜北小学校

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指した取組事例

事例1 ▶ デジタル学習基盤が可能とする「安心して、探究に夢中になれる学びの姿と教師の役割」

- 学年・教科名 第6学年・算数科
- 单元名 角柱と円柱の体積（4／5時）
- 身に付けさせたい力 直方体を組み合わせた図形の体積の求め方を、角柱とみて考え、図や式を用いて説明することができる。



導入

児童は「凹凸のある立体図形も、既習の底面積×高さで求められるはず」と仮説立て、まずは、立体図形を360度から見渡せるデジタルコンテンツや具体物も用いて、凹凸のある立体図形の底面をどこで捉えるのかを考える。



教師は、クラウド環境を介して児童の図形の捉え方をタイムリーに見取り、必要に応じて具体物で個別に支援。

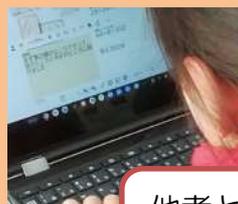
→ 一人一人が底面を捉え、既習の公式「底面積×高さ」で求積できたという状況となった上で「展開」へ。

展開

「ほんとうに底面積×高さが今回も当てはまるといえるのかな。」立てた仮説について、批判的に捉え直し、別の求積方法で論理的に説明を考える。児童一人一人が自分の考えた求積方法で探究に夢中。学習は個性化。進度も様々。

既習の公式で求めた解が正しいといえるのかについて、児童一人一人が図や式を用いて説明できているかを教師はクラウド環境を介して見取る。

→ 個別に支援してから協働へ。



他者との学び合いを促進。自分と異なる考えで説明している友達を端末で探させ、考えの共有を促す。

まとめ

ねらいに即した学習活動の精選とデジタル学習基盤を生かした授業設計により捻出された余白時間で、終末はのびのびと全体共有・適用問題・振り返り。



意図的な指名で全体共有も精選。その後、類似問題への適用化や振り返りをクラウド上で称賛し、褒め広める。

複雑な立体の体積も、「底面積×高さ」で求めることができる。	私はオクリンクスを使って複雑な立体の体積を求めることができました。複雑な立体の体積を求めるには「底面積×高さ」を使うと求められました。複雑な立体の体積はどのような求め方があるのか、求め方を教えてほしいという児童の体積を求めていきたいです。	123
複雑な立体でも、「底面積×高さ」の式で求めることができる。	今日の学習で、「底面積×高さ」の式を使って考えましたので、複雑な立体でも、「底面積×高さ」の式を使うことができました。「底面積×高さ」の式で考えを求め、答えが出ているか確認することが大切でした。次の学習では、別の立体の体積を求めるときでも「底面積×高さ」の式が使えますので、それを使って体積を求めていきたいです。	174



事例2

言語能力が基盤となり支える「安心して、探究に夢中になれる学びの姿と教師の役割」

○学年・教科名

第3学年・国語科

○单元名

食べ物ひみつブックをつくろう（6／12時）

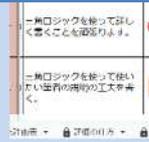
○身に付けさせたい力

目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見つけ、食べ物ひみつブックで使いたい筆者の工夫を伝えている。

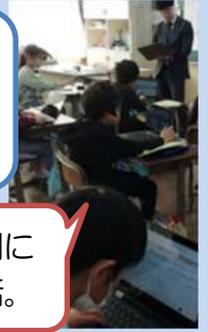


導入

児童は、教師自作の失敗モデルを基に、既習である筆者の工夫を出し合う。その具体を、書き込みびっしりの全文プリントで音読しながら想起。その上で、本時の学習課題を一人一人が入力。

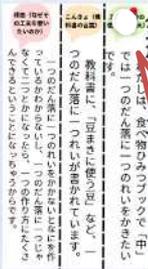
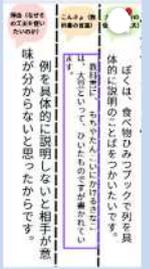


教師は課題について個別に見取り、必要に応じ対話。



展開

单元後半に計画した「自分で食べ物を説明する」際に使いたい「筆者の工夫」について、工夫・言葉・理由の3つの視点から言語化し、クラウド上に共有。



使い慣れた思考ツールを用いて、自分の考えを論理的に表出させる。



その工夫が「あると」「ないと」ではどう違うかという対話の視点を、教師が提案。

まとめ

終末では、課題に対するまとめと、自分の学びについての振り返りを言語化。入力後、並行読書コーナーへ次々と足を運び、夢中になって読書。



教師は、振り返りに表れた言葉から、一人一人の変容を見取り、褒め広めたり、対話して考えを深めたりする。



授業後の様子

本時の学びについて、授業後も先生と対話したがる児童たち。



休み時間も並行読書に夢中になって読み浸る児童の姿が、教室のそこかしこに。

